

## 平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		11 03 01	中期総合計画主要施策番号		1-06,1-07	担当課	部・課	建設部 道路管理課		
事業名		道路愛護活動促進事業					内線	3397		
							E-mail	michikanri@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・住民のボランティアによる道路の維持管理活動を促進し、県民の道路への関心を高め、地域との協働のもと効率的な道路の維持管理を図る。								
	事業の必要性	【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】 ・日常的な道路沿道の維持管理は行われているが十分でなく、草刈等に対して沿道住民等から多くの要望が出ている。また、地域等による道路の美化活動もなされているが、行政との連携が十分ではなく活動の鈍化もみられる。 【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】 ・地域の中で道路美化のボランティア活動を行っている意欲ある団体もあるが、行政との情報共有や支援システムが十分でない。 【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】 ・ボランティアで道路美化活動等を行う団体を支援し、道路愛護意識の高揚、道路環境の向上及び地域住民の交流促進を図る必要がある。								
		事業内容	・住民団体等、県、市町村の役割分担を明確にし、道路の美化活動等を行う「アダプトシステム」の普及 ・県民からの応募による「信州ロード観察隊員」を活用した道路に関する情報や意見の収集							
		実施期間	H15 ~	根拠法令等	アダプトシステム支援事業協力拡大5カ年計画					
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	県民の道路愛護活動への参加を促進し、地域との協働のもと道路の維持管理を行う。(アダプトシステム支援事業協力拡大5カ年計画目標年度:平成22年度、目標団体数200、目標道路延長217km)		アダプトシステム支援事業協力拡大5カ年計画に基づき、平成22年度目標に対して着実に推進する。			平成20年度末アダプトシステム協定団体数は平成19年度末から29団体増加し198団体、実施道路延長は68km増加し283kmに達し、平成22年度目標をほぼ達成することができた。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	17,886	19,160	31,113	国庫・県単	県単		
	決 算 額 (B)		千円	16,939	18,961		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	16,264	18,123	30,000	歳出節別内訳等	需用費: 18,123 役務費: 838		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	1.50	1.50	1.50	(単位: 千円)			
	概算人件費 (C)		千円	10,710	10,724	10,724				
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	27,649	29,685	41,837					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	道路愛護活動参加者数		人	25948	47,893	51500				
	信州ロード観察隊員通報件数		件	99	100	100				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・住民との協働による効率的な道路の維持管理は、今後も普及拡大を図る必要があり、県の支援を継続する必要がある。 ・ボランティア活動が広く浸透してきており、道路維持活動への住民意識が高まってきている。 ・道路愛護意識の一層の高揚を図るためのより効果的・効率的な支援策の検討を更に進める。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	課題の総括		・道路愛護に関する住民意識の高揚が図られ、地域との協働による効率的な道路の維持管理が普及してきているが、今後、一層の拡大を図るため、より多くの人に道路愛護活動に参加してもらうための意識啓発や、道路愛護活動参加者の参加意欲が継続するための支援策等を検討する必要がある。							